日本新聞 (明治25年3月26日第3種郵便物認可) 第47647号 (日刊)
西日本新聞
2016年6月19日(日曜日)

広報の書 博多祇園山笠大全 書店で好評発売中

医療機能評価機構 第1号認定病院
福岡県認知症医療センター
神経精神科 内科 【1.5テスラMRI完備】
牧病院
西鉄桜台駅前
TEL092(922)2853
西鉄福岡(天神)駅より25分
http://www.maki.or.jp

きょう 朝 昼 夜 6時~12時~18時~ 降水確率 最高/最低気温 風向 あす

	朝	昼	夜	最高	最低	風向
福岡	60	70	50	29	24	↑
北九州	50	50	30	29	23	↑
あす 福岡	60			28	24	
あす 北九州	60			28	24	

(第3種郵便物認可)

TAO×竹田

文化芸術は街を元気にする!

久住発 サンデーコラム

夏フェスで観光客誘致

TAOが、全国各地や世界各国を巡る中で、それぞれの地域の音楽や芸術、文化遺産や食など〝そこにしかない〟ことに触れるのも魅力のひとつだ。そんな経験をしてきたからこそ、あさみ台にて構想の芸術村を〝竹田市にしかない〟魅力として発信していきたい。訪れるお客さまは大自然の中で唯一無二の舞台芸術を楽しみ、最高のおもてなしを受けられる。全世界から芸術村に観光客が来てくれるようになれば、市全体の活性化につながるはずだ。

これまで、その前段階ともいえるイベントを毎年開催してきた。そもそも始まったきっかけは、1998年の「大分国民文化祭」。その一環として久住高原で音楽祭ができないかと相談を受けたとき、TAOがこれまで交流してきたアジアの打楽器アーティストを招待した音楽祭の構想が浮かんだ。例えば、韓国のサムルノリやインドネシア・バリのガムランなど独特の演奏方法や表現をTAOは現地で直接学んでいた。そんな密接な交流を通して、ぜひ久住に彼らを招きたいという気持ちが生まれるのは必然だった。

彼らとともにつくる音楽祭はとても感動的なイベントになった。地元の人に素晴らしいものを見せられるというだけでなく、世界中からの誘客につながるほか、TAOのアーティストにとってもかけがえのない経験となった。また、招待アーティストも竹田市の素晴らしい環境にとても感動してくれていた。国籍の違う人たちと音楽を通して生まれた絆は、気付けば自分たちの拠点を世界に紹介することにつながっていたのだ。

このイベントは、翌年より「アジア芸能の祭典」と銘打って毎年開催。2002年からは「久住高原国際音楽フェスティバル」、通称「Beat of Globe」を開催するに至った。海外アーティストはアジアの枠を超え、エクアドルのフォルクローレ、セネガルのジャンベ…など、文字通り〝地球のビート〟をテーマに開催した。

TAOの里に野外劇場「赤兜(あかかぶと)」が完成してからは、TAOが運営の全てを行う「くじゅう高原・TAOの夏フェス」へと進化した。現在、年間300公演をこなすTAOが、竹田の本拠地で開催する唯一のイベントである。ここではアーティスト自らがお客さまをもてなすということに徹底的にこだわっている。赤兜での特別ライブはもちろん、充実した特別企画や屋台村の運営も全て彼らが行う。まさに一日中TAOと触れ合える特別な環境だ。

当初、2日間だったこの夏フェスも年々拡大し、今年は8月中旬から16日間開催する。国内外から集うお客さまは、期間中1万人を数えるイベントに成長した。また、市内約70施設と連携し、夏フェスのお客さまがそのまま竹田市内をまるごと楽しめる仕組みもつくった。

あさみ台での芸術村が完成すれば、もっと大々的に観光誘客へとつながるはずだ。そして20年には、オリンピック目当てに東京に訪れる観光客を、地方都市へと導く口火を切るアーティストになりたい。芸術文化の素晴らしさは、国境も人種も年齢も、言語の垣根さえも超えていく。これまで世界を廻り、それを体感したTAOだからこそ実現できると、信じている。

(タオ・エンターテイメント社長、藤高郁夫)

昨夏開催されたTAOの夏フェスには多くの観衆が詰め掛けた